

題目：

## 看護女子大学生の「性の健康」をめざす教育プログラム作成へ向けたエビデンスの集積

保健医療学専攻・助産学分野・助産学領域

氏名：小倉由紀子

キーワード：看護女子大学生 性の健康 包括的性教育 教育プログラム

### I. 研究の背景と目的

わが国は非婚化・晩婚化等による出生率の低下により、厳しい少子化が続いている。2021年の出生数は81万1,604人で過去最低を示し、政府の予想より11年早いスピードで少子化が進行している<sup>1)</sup>。加えて、10代女性の望まぬ妊娠や性感染症治療の放置が原因となる不妊、さらにCOVID-19感染拡大に伴う自粛生活による性暴力等の事件が深刻化<sup>2)</sup>する一方、若者の異性に対する関心の低下も加わり、性に関する課題は大きい。

本研究は、大学生の「性の健康」に関する課題解決をめざすため、2004年に出版されたアメリカ性情報・教育協議会SIECUS (Sexuality Information and Education Council of the United States) の「包括的な性教育のためのガイドライン第3版：Guidelines for Comprehensive Sexuality Education 3<sup>RD</sup> EDITION-kindergarten through 12<sup>th</sup> Grade」<sup>3)</sup>を採用する。これはReproductive Health/ Rightsを根拠とし、「性的に健康なおとなの行動基準37項目」を示している。研究1では、日本で性教育を受けた看護女子大学生の「性の健康」の実態を明らかにする。研究2では、専門家の考える性教育に必要な内容を精選し、看護女子大学生の「性の健康」をめざした性教育プログラム作成への資料とする。

\*『性の健康』とは、自他の身体を肯定的に受容し健康管理ができること。さらに効果的な人間関係を育み、自身の性行動に意思決定と責任をもち、社会に適応したセルフマネジメントができることとした。

### II. 方法

**研究1**：2020年6月～9月に、大学看護学部92校（国立38校、公立23校、私立31校）に研究を依頼し、研究協力の同意を得られた大学の看護学部の学生（1年生と4年生）を対象とし、無記名自記式質問紙とQRコード読み取りアンケートを用いた横断研究を実施した。調査項目は、①属性、②SIECUSのトピック項目、③SIECUSの「性的に健康なおとなの行動基準37項目」<sup>3)</sup>、④草野の「性的リスク対処意識尺度18項目」<sup>4)</sup>で、5段階リッカートで測定した。分析方法は、統計パッケージSPSS Statistics Ver28を用い、記述統計、Mann-Whitney U検定を行った。⑤自由記述は計量テキスト分析を行った。

**研究2**：2021年12月～2022年5月、保健体育教諭 助産師 保健師 養護教諭 母性看護学・助産学領域の大学教員を対象に、『大学生の「性の健康」をめざす性教育プログラムの内容』のコンセンサスを得るため、⑥デルファイ法を用いて「性的に健康なおとなの行動基準37項目」の精選を行った。

倫理的配慮は、対象に個人情報の保護、インフォームドコンセントの実施、参加者の不利益がないこと、厳重なデータ管理等を説明した。国際医療福祉大学倫理委員会の承認を得て実施した（19-Ifh-059）。

### III. 結果

**研究1**：①看護学部16学部389名から回答を得た（回収率14.2%）。学生の378名（97.1%）が学校で性を学び、受けた時期は中学校303名（77.8%）が最も多かった。性の情報はインターネットやSNSで取得した者が218名（56%）であった。性教育の担当者は、保健体育教諭358名（92%）、養護教諭155名（39.8%）、大学教員115名（29.5%）等である。学生の96.6%は性教育が必要と答えた。性交経験は、有が200名（51.4%）であった。②過去に学んだ性教育をSIECUSのトピックで見ると30%以下の項目は13項目であり、特に「性的指向」、「愛」、「オナニー」、「性的禁欲」、「性的空想」、「性機能障害」、「リプロダクティブヘルス」、「妊娠と出生前ケア（プレコンセプションケア）」、「セクシュアリティと社会法律」、「セクシュアリティと芸術」は10%代であった。逆

に高かった項目は、「避妊」「中絶」「性感染症」「HIV/エイズ」で、80%以上を占めた。③SIECUSの「性的に健康なおとなの行動基準37項目」では、1年生より4年生が社会と文化が高かった。④性的リスク対処意識尺度では、性的リスク対処意識は性交経験者が高かった。⑤の自由記述からは、【01. 性や性感染症の教育に関する環境改善】【02. 性や性教育についての人の捉え方や考え方】【03. 両性の体に対する正しい情報提供】【04. 妊娠や人工中絶が女性の体に及ぼす影響と避妊方法の実際】【05. LGBTの理解が多様性に繋がる】【06. 性に関するリスクについての情報提供】の6つのサブグラフを抽出した。

**研究2:**⑥デルファイ法で専門家が抽出した「性の健康」をめざす性教育プログラムの内容は、人間発達から1項目で「自分の体に感謝できる」、人間関係から1項目で「人間関係を高めるようスキルを習得できている」、個人のスキルから3項目で「自分の価値観を確認し、それに従って生きることができる」「効果的な意思決定をすることができる」「批判的な思考方法を発展させることができる」、性行動から1項目で「自分の性を高めるために新しい情報を集めることができる」、性的健康から2項目で「定期健診、乳房や睾丸の自己検査などで健康管理をし、問題を早期に発見するなどの健康促進行動を習慣づけることができる」「出生前のケアを早い段階で求めることができる」、さらに、社会・文化から5項目で「性的な問題を扱う法律に影響を与えるための責任を果たすことができる」「ジェンダーや性的指向、文化、民族、人種などに基づいた社会の偏見について批判的に考察することができる」「すべての人が性について正確な情報を知る権利を獲得することができる」「先入観や人権的、宗教的な偏見に根差す憎悪を表す行動を避けることができる」「異なる集団の性的指向に関する偏見を拒絶することができる」の13項目であった。

#### IV. 考察

**研究1:**看護女子大学生は、概ね学校で性を学んでおり、その担当者は保健体育教諭と答えた者が多かった。一方56%の学生はインターネットやSNSで性の情報を得ており、学校で行われた性教育は、学生のニーズに合っていない可能性が考えられる。しかし96.6%の学生は内容の過不足を感じながらも性教育が必要と答え、性を肯定的にとらえていた。性交は51.4%が経験していた。性交経験者は、性的リスク対処意識が高く、積極的な態度や自信を育てることに繋がっていた。学生は、学習指導要領の影響下、避妊や中絶、性感染症の知識はあったが、性の持つ多様な意味の性行動の項目は低かった。また「リプロダクティブヘルス」、「妊娠と出生前ケア（プレコンセプションケア）」の性的健康、「セクシュアリティと社会・法律」の社会と文化との関係性も学んでいないことが明らかとなった。さらに人間関係やコミュニケーションなどの個人のスキルも低い。したがって、看護女子大学生に自他の体や相手の気持ちの理解、性の健康を自分で調整していく力や意思決定力の強化など、さらにReproductive Health/ Rightsを根底にした包括的性教育が必要であることが明らかとなった。

**研究2:**専門家は日本の大学生に即した6概念の知識が「性の健康」をめざすために必要であると回答した。特に「性的健康」の自己の健康管理やプレコンセプションケアは、次世代の未来をつなぐために重要と考えている。また他者からの強制ではなく「行動を自ら決定した」とより強く感じられるような「個人のスキル」の方法や多様な価値観、さまざまな偏見を学ぶ「社会と文化」などは、学生に多くの選択肢を与え、自己決定できるよう早期に支援していくために重要であると考えていた。さらに職種によるアンコンシャス・バイアスの存在が確認された。今後はその存在を意識し問い直すことが必要である。

#### V. 結語

本研究は、看護女子大学生の「性の健康」をめざした性教育プログラム作成への示唆を得ることを目的とし、看護女子大学生と性教育に関わる専門家の調査を行った。その基礎的データから、他者とのかかわりを前提とした性に関する知識や互いの気持ちを体験的に学習できるための「性の健康」をめざす性教育プログラム作成に向けたエビデンスを集積した。また研究1と研究2の結果から日本の看護女子大学生に不足している項目をSIECUSの6概念に分け抽出、内容項目を精選し、性教育プログラム作成に向けての示唆を得ることができた。

文献

- 1)内閣府(2022)<https://www8.cao.go.jp/shoushi/shoushika/index.html> 2022年10月3日閲覧
- 2)警察庁(2021)<https://www.npa.go.jp/publications/statistics/sousa/statistics.html> 2022年10月3日閲覧
- 3) National Guidelines Task Force. Guidelines for Comprehensive Sexuality Education : Kindergarten through 12<sup>th</sup> Grade,3<sup>rd</sup> Edition. SIECUS. 2004
- 4) 草野いづみ. 大学生の性的自己意識、性的リスク対処意識と性交経験の関係. 青年心理学 2006; 18: 41-50